

# 障がい福祉瓦版



■問い合わせ先 市障がい児者相談支援センター ☎(37)9970

11月1日は「点字の日(日本点字制定記念日)」です。今回は、点字の歴史やしくみについてお伝えします。

## 点字の歴史

現在、世界中で広く使われている6点点字は、1825年、フランスのルイ・ブライユさんによって考案されました。

ブライユさんは、3歳の時にケガで目が不自由になり、パリの盲学校で学んでいました。学校では、紙に浮き出させた文字の線を手で触って読む「浮き出し文字」が使われていましたが、速く読むことや自分で書くことは難しく、社会でも普及していませんでした。

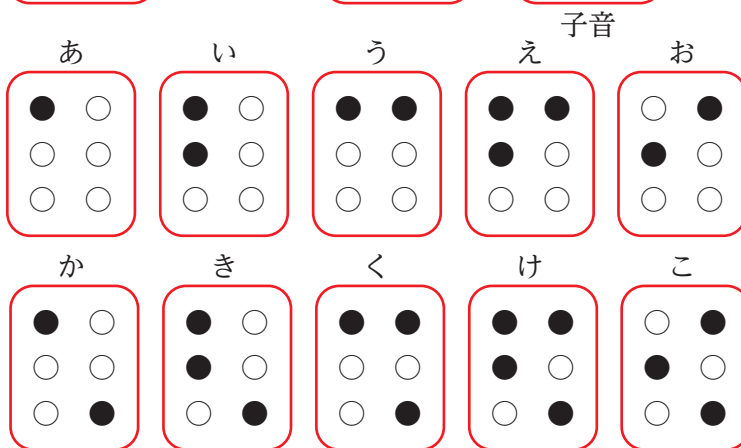
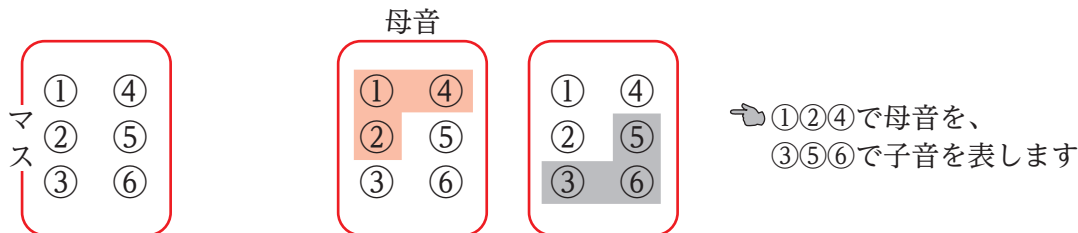
自由に文字を読み書きできるようにしたいと考えたブライユさんは、戦場で夜間の暗号として使用されていた12点点字に着目し、検証、改良を重ねながら、たて3点、よこ2列の6点点字を生み出しました。当時、ブライユさんはまだ16歳でした。



## 日本点字の父

日本でもブライユ式の点字を使うようになりましたが、日本語をローマ字表記にする必要がありました。そこで、東京盲啞学校(現：筑波大学附属視覚特別支援学校)の教員であった石川倉次さんが、ブライユ式の点字をもとに、日本語のかな50音に対応した点字を考案しました。1890(明治23)年11月1日、日本点字選定委員会にて採用が決まり、この日がのちに「点字の日」となりました。

点字は盛り上がった6つの点の組み合わせで文字や記号を表し、この1つの単位をマスといいます。指先で触れたときの感覚が異なるように、6つの点は大きさや間隔が規定されています。



## 生活の中の点字

最近では、スマートフォンやパソコンに「音声読み上げ機能」が備わっているものもあり、視覚障がい者用のアプリも増えてきていますが、日常生活の中では、まだまだ点字は欠かせない存在です。

例えば、エレベーターや洗濯機、トイレなど、身近なものの操作ボタンには、点字がついていることが多いです。また、清涼飲料水とアルコールを区別するため、缶ビールなどには「おさけ」と点字で表記してあります。

興味を持たれた方は、ぜひ身の回りの点字を探して、何が書かれているのか調べてみてはいかがでしょうか。